降誕前節第4主日・待降節第１主日・アドベント（紫）

主日礼拝

２０２６年１１月２９日　１０時２０分～

司式:

奏楽:

≪神の招き≫

前　　奏	『クリスマス協奏曲より Vivace, Grave, Allegro 』コレッリ	
	灯火入堂	アコライト：教会学校
招　　詞	ローマの信徒への手紙13章11節	
賛 美 歌	２３１	

≪神の言葉≫

祈　　祷	アドベントの祈り	
聖　　書	エレミヤ書33章14～16節	（旧約1225頁）
	ルカによる福音書21章25～36節	（新約　150頁）
子ども説教		
交 読 詩 編	25編1～7節	（29頁）
賛 美 歌	２４０	
説　　教	「 救いが近づいている 」	八木浩史牧師
祈　　祷		
賛 美 歌	２４１	

≪感謝の応答≫

信仰告白	使徒信条	
奉　　献	献金	祈祷:献金当番
主の祈り	（週報表紙、ホームページ掲載）	

≪派　遣≫

頌　　栄	２７	
祝　　福		
報　　告		
後　　奏	『 クリスマス協奏曲》より Pastorale 』コレッリ	

礼拝当番:　　（役員:　　）　　献金当番:

音響:　　映像:

■■■　調布教会は 2026 年度に創立 80 周年を迎えました！　■■■

「 救いが近づいている 」

『エレミヤ書』33 章 14～16 節では、神がイスラエルとユダの家に約束された救いの実現が語られています。神は、かつて約束されたことを必ず成し遂げると言われます。「その日が来る」と、ダビデの子孫から一人の「正義の若枝」を出させられ、その者が公正と正義をもって国を治めるのです。そしてエルサレムの都は主の平和によって、「主は我らの義」と呼ばれるのです。これはバビロン捕囚によってイスラエルの国が滅び、再興は絶望的とさえ思えた時に与えられた希望の預言でした。人の目には、神の約束が失われたかのように見えても、神はその民を愛し続け、憐み、ご自分の約束を決してお忘れになりません。そして「その日」は近づいているのです。

『ルカによる福音書』21 章 25～36 節では、終わりの日に起こる出来事と、「人の子」の到来について語られています。太陽、月、星に徴が現れ、地上では海が荒れ狂う中で、諸国の民は恐怖に襲われます。しかし、そのような出来事の中でこそ、人々は「人の子が力と大いなる栄光を帯びて雲に乗って来る」のを見るのです。主イエスは、「これらのことが起こるのを見たら、神の国は近いと悟りなさい」と教えられます。恐れるのではなく、「身を起こし、頭を上げなさい」と言われます。それは救いが近づいているからです。いちじくの木に葉が出始めるなら、夏が近いと分かるように、これらの出来事によって、救いの接近を悟るべきなのです。だからこそ、心が鈍くならないように注意し、いつも目を覚まして祈ることが求められます。主の再臨を待つ者は、救いの完成に希望を置いて生きることができるのです。